

答

水道管の液状化対策は、老朽化の進行などを考慮し、優先度の高い管路から取り組んでおり、耐震化率は約18パーセントとなっている。また、下水道管については、平成9年度に耐震対策指針が策定された後、整備を行っており、耐震化率は約33パーセントとなっている。今後は、費用対効果に優れた工法で耐震性を確保するとともに、液状化に伴うマンホールの浮上防止対策は、緊急輸送路や避難路に設置しているものから優先して検討を行いたい。

西条市民クラブ

一般質問

西条の水を守りたい！

問

加茂川からの分水問題について、一刻も早くこの問題に終止符を打ち、西条の清らかな水を後世に伝える。



加茂川

たいと考えるが、解決の糸口が見えていない現状である。愛媛県や松山市と西条市の間では、現状の認識に大きな違いがあるようであるが、11月17日の記者会見の内容も踏まえ、分水問題に対し、市長はどのように考えているのか。

答

分水問題については、市政懇談会などで市民のかたがたの思いを確認し、分水のできる状況ではない、早く議論を終わらせていただきたいという意見が大半であったため、11月17日の記者会見で松山市からの分水要請にはお応えできないと申し上げた。

西条農業革新都市プロジェクトの現状は？

問

近年の米価の低迷により、農家では有望作物への転換を模索する動きがある中で、西条農業革新都市プロジェクトの進展が農家の作物選定の一つの選択肢になれどと思うが、プロジェクトの現状と地元農業への影響について問う。

答

加工・業務用野菜の需要が増大する中で、本市において、恵まれた環境を生かし、これまでの生食用野菜に加え、新たに加工用野菜の生産に取り組むことは可能であると考えている。平成26年2月には、株式会社サンライズ西条加工センターが設立され、更に、同年10月にHACC対応工場としては四国

今後、道前平野地下水資源調査研究委員会の答申に基づき、地下水の涵養量を確保するための方策を調査・研究し、水問題に関する協議会の中で協議していきたくと考えている。

最大級のカット野菜工場が竣工したことは、市場のニーズを的確に捉え、農産物の付加価値を高めるとともに、新たな雇用を創出し、地域農業の活性化を推進する起爆剤となり得ると期待している。また、株式会社サンライズファーム西条においては、当地での加工用野菜の生産技術体系の確立・普及に取り組んでいただけると考えている。

また、米価が低迷する現状を鑑みると、安定的な価格で取引ができる加工用野菜の生産に取り組む生産者が増加し、ひいては農地の有効活用に資すると考えている。既に、市内JAでは、加工用野菜の産地づくりに向けたプロジェクトを開始しており、市としても積極的に支援していきたい。



株式会社サンライズ西条加工センター

公明党

西条市議会

一般質問

地域包括ケアシステムの構築に向けた取組は？

問

我が国では、世界に類を見ないスピードで高齢化が進んでおり、平成67年には、75歳以上の後期高齢者が総人口の26.1パーセントになると見込まれている。また、近年、高齢者のみの世帯や単身高齢者世帯が増加し、介護保険制度の果たす役割はますます大きくなっている。

そのような中、医療介護総合確保推進法が制定され、効果的な医療・介護体制を確立させることとなり、自治体が主体性を持ち、きめ細かいサービスをどう充実させるかが課題となっている。本市では、今後、医療と介護が連携した地域包括ケアシステム構築に向け、どう取り組んでいくのか。